

平成 31 年（令和元年）度

**運営に関する計画
(最終評価)**



大阪市立晴明丘南小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

全国学力・学習状況調査や、大阪市小学校学力経年調査の結果を見ると、本校の児童は、どの教科においても大阪市平均を上回っており、身に付けておくべき学力がおおむね定着していると考えられる。また、質問紙調査から見ても、規範意識や自尊感情なども全体的には高い傾向がみられる。しかし、ごく少数ではあるが、基礎学力に課題のある児童もあり、個別の対応が必要になっている。

2年間の生活科・総合的な学習の時間の研究・取組の成果で、自分から進んで課題を見付けたり、友だちと協働して課題解決の方法を考えたりという主体的な学習態度も少しずつ育ってきているが、まだまだ課題があるといえる。また、「友達と話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広めたりすることができている」と感じている児童も増えてきているが、8割には到達していない。昨年度も、思考ツールを活用した取組をすすめ、自分なりの意見をもっての話合いをしたり、ルーブリックを活用してめあてを明確化し振り返りを大切にしたりするという取組を進めている。

学習指導要領の改訂を受けて、育成を目指す資質や能力を考えたとき、さらに主体的な学びや、友達や様々な他者との対話的な学び、そして、将来を見据えた探究的な深い学びを充実し、汎用性のある活きた学力の向上と、互いの違いを尊重し協働的に活動できる豊かな人間性の涵養が本校の児童にとって重要であるといえる。

そのためにも、価値ある体験を通して、主体的に課題を見付ける学習活動を指導者が工夫し、自ら学習に取り組む楽しさや、友だちと協働的に学ぶ楽しさを児童に実感させる授業改善を充実させていきたい。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ・平成29年度から令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年100%にする。
- ・令和2年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。
- ・令和2年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・令和2年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。

- ・令和2年度の小学校学力経年調査における標準化得点を平成28年度より3ポイント増加させる。
- ・令和3年の全国体力・運動能力、運動習慣調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成31年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。
- 平成31年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 平成31年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 平成31年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を85%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も0にする。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上、上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント以上増加させる。
- 小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を、前年度より増加させる。
- 平成31年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。

学校園の年度目標

- ・平成 31 年度の保護者アンケートにおける「学校は、体験的な活動を通して、子どもたちの主体的な学習をすすめている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える割合を 80%以上にする。
- ・平成 31 年度の校内児童アンケートにおける「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目について、「当てはまる (どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を年度当初より向上させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

昨年同様、常に子どもたちの現状をしっかりと把握し教職員全体で共通理解することを大切にしてきた。その結果、小さいじめや子ども同士のトラブルを見逃さず、早期の解決を図ることができた。不登校の傾向にある子どもに対しても、担任だけでなく学校として保護者と連携を図りながら、子どもに寄り添うことができている。

本年度は、図書館、図工室、家庭科室、体育館などの環境整備に努め、ドリームガーデンの活用も進んできている。その成果もあってか、学校が楽しいと答える児童も増加し、規範意識についても少しずつ高まってきている。今後も継続して「時間を守る」など学校のきまりを再確認し、学校全体で統一した指導を進めていくことが重要である。

学力向上の取組としては、新学習指導要領に則った授業改善を中心に、若手教員も多い中、学校全体として組織的に研究をすすめることができた。子どもたちが「主体的に自ら課題をもち、友だちと協働的に課題解決する力」を育てるなどを大きな目標としているが、地域や保護者の方の大きな協力もあり、子どもたちは、たくさんの価値ある体験を通して、その力を伸ばしてきている。特に、自分たちの住んでいる地域の中から、探求する課題を見つけることで、地域との連携も深まり、子どもたちも発達段階に応じた形で地域に自ら働きかけていくことができたことは大きな成果である。

しかしながら、経年調査の結果においては、全体的には高得点ではあるものの、二極化の傾向が進みつつあることは課題である。体力・運動能力の調査結果においても、全体的な課題も見られることから、今後、個に応じたきめ細やかな取組や、運動に進んで親しむことのできるような手立てを考えていく必要がある。

様式（2）

大阪市立晴明丘南小学校 平成31年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】	
全市共通目標（小・中学校） <ul style="list-style-type: none"> ① 平成31年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 100% ② 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。 前年度 90.7% ⇒ 今年度 91.6% ③ 平成31年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 前年度 0 ⇒ 今年度 0 ④ 平成31年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 前年度 0 ⇒ 今年度 0.3 	B
学校の年度目標 <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を85%以上にする。 前年度 83.6% ⇒ 今年度 87.1% 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】 教育課程の中に、価値ある体験を位置づけ、各学年で体験を通して社会性や豊かな心情を育む。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・社会見学など、地域や校外での体験的な学習を年間2回以上実施する。 ・遠足や児童会活動などを活用して、異学年と交流する集会を毎学期実施する。 ・縦割り班活動としての児童集会の在り方を工夫し、平成31年度の児童アンケートにおいて、「児童集会での他学年との交流が楽しかった」と答える児童の割合を80%以上にする。 	B
取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】 違いを認め、尊重し合える集団を育成する。	

指標

- ・互いに尊重し合える集団作りのために道徳の授業を活用し年1回以上公開授業を行う。
- ・いじめを考える日を設け、学校全体で取組を進める。
- ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。
- ・若手教員を中心とした学級経営や教材指導の研修会を月1回実施する。

B

具体的な取組内容や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】

- ・各学年、生活科・総合的な学習、遠足、社会見学等で校外に出る機会を多く設けることができた。「実物・本物にふれる」といった学校内ではできない経験をたくさん積むことによって子どもたちに多くの気付きが見られた。社会見学では、学習内容の理解が深まったとともに、興味や関心が広がった。

1年	春の遠足（浜寺公園）	秋の遠足（大仙公園）	公園清掃
2年	春の遠足（浜寺公園）	秋の遠足（大仙公園）	町たんけん
3年	春の遠足（錦織公園）	秋の遠足（海遊館）	校区たんけん 福祉施設見学 スーパー・商店街の見学 阿部野神社太鼓体験 社会見学(阿倍野タスカル)
4年	春の遠足（錦織公園）	秋の遠足（海遊館）	社会見学(大阪府警察本部・科学技術館) みどり教室との交流
5年	春の遠足（錦織公園）	秋の遠足（カップヌードルミュージアム）	林間学習 チン電ウォッキング 社会見学（中央卸売市場）（ハードロック工業） 文楽 阪南中合唱コンクール鑑賞
6年	修学旅行 自然体験学習 文楽	社会見学（ピース大阪見学）	写生会（中央公会堂） 阪南中合唱コンクール鑑賞 スポーツ交歓会 卒業遠足

- ・児童集会の内容をグループで協力してできるものを多く取り入れることで、異学年の交流が増えた。5年生6年生がリーダーとなり、グループをまとめようと取り組んでいた。晴明南カーニバルでは、高学年が低学年の行きたいところを聞いたり、大なわ集会では、低学年に合わせてゆっくり縄を回したり、跳べるコツを教えたりしている姿が見られた。また、遠足に行った際には、上級生が下級生をリードする姿が多く見られた。休み時間にも、高学年と低学年が楽しく遊んだり、話をしたりしている姿が見られるようになった。
- ・児童集会のゲームの内容を工夫したことで、児童アンケートは取れなかつたが、保護者アンケートで「子どもは、児童集会（木曜日の朝、晴明南カーニバル等）が楽しいと言っている。」と答える児童の割合が84%となり、目標としていた80%以上を超えることができた。

取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】

- ・参観日を使って各クラス年1回道徳の公開授業を行い、保護者への啓発を図った。毎時間「道徳ノート」などを活用し、自分の生活を見直す機会となっている。
- ・いじめを考える日では、校長先生の講話や各学年で選定した教材を通して、「いじめは絶対にしてはいけない。」ということを考えさせた。それぞれの違いを認めつつ、相手を大切にし合える学級経営に努めた。
- ・「できたとき」「がんばったとき」にはたくさんほめるなど、自尊感情を育つように努めてきた。小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」の

項目について、肯定的に答える児童の割合が77.2%となり、目標である80%を超えることができなかつた。自尊感情が低い児童に対する支援を続けていくとともに、よりよい支援の在り方を考えていかなければならない。

- ・メンター研修を月中行事に組み入れ、毎月1回ずつ計画的に行つた。常日頃から中堅・ベテラン教員がアドバイスを送り、若手教員の資質向上を図ることができた。

次年度への改善点

取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】

- ・次年度に向けて、学校行事の精選を行つてはいるが、児童にとってより効果的なものを年度当初に計画する。また、校外に出るための人員配置を検討する必要がある。
- ・グループで協力できるゲームが増えるよう取り組んでいく。常にグループ活動をメインに置いた集会を考える。ゲーム集会だけでなく、いろいろな形の集会を考える。(音楽集会など)

取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】

- ・「道徳ノート」の使い方を深めていく。道徳の授業で自分の生活について見直したことを実生活に活かすことができるように取り組んでいく。
- ・「いじめを考える日」だけでなく、常日頃からいじめにつながりうる言動に対する指導を行う。
- ・自分の気持ちをうまく伝えることができない児童に対する支援を考える。(ソーシャルスキルの導入など)
自尊感情や他尊感情を養える取り組みを考えていく。(「いいところみつけ」「ピア・サポート」など)
- ・互いを認め合える学級集団を育成するための学級経営の研修を行う。

様式(2)

大阪市立晴明丘南小学校 平成31年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>① 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 (現6年107.4→106.0↓ 現5年104, 6→104.9↑ 現4年102.5→102.8↑)</p> <p>② 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も0にする。 (現6年1.9→3.6 現5年0→5.6 現4年3.8→7.5)</p> <p>③ 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上、上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント以上増加させる。 (現6年53.8→54.5 現5年42.6→48.1 現4年36.5→39.6)</p> <p>④ 小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を、前年度より増加させる。78.6→81.3</p> <p>⑤ 平成31年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。 (男子97% 女子84% 平均90.5%)</p> <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成31年度の保護者アンケートにおける「学校は、体験的な活動を通して、子どもたちの主体的な学習をすすめている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える割合を80%以上にする。 (当てはまる58% どちらかといえば当てはまる34%) 平成31年度の校内児童アンケートにおける「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を年度当初より向上させる。 (5月時87.4%→1月時88.4%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策1 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 基礎基本の学力の定着を図るとともに、個々の学力の向上をめざして、個に応じた課題の与え方を工夫する。	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・国語、算数、理科、社会の4教科すべてで学習教材データベースやドリルなどを活用し、能力に応じた個別の課題を与える機会をつくる。 ・週に1回自主学習を設定し、提出率を80%以上にする。 	
取組内容②【施策1 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 主体的・対話的で深い学びの視点に沿った授業改革に取り組み、思考力の向上を図る。	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの学習意欲を高めるための研究を行い、授業研究会を年6回以上もつ。 ・論理的に考え、協働的に考えを深めたり拡げたりする手立てとして思考ツールを活用した授業を全員が行う。 ・授業において、子ども自身が学びを振り返る手立てとして、ループブリックの活用をすすめる。 ・平成31年度の校内児童アンケートにおける「生活科・総合的な学習の時間にすんで取り組むことができましたか。」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。また、「総合的な学習の時間に友達と話し合い、協力することで課題を解決することは楽しいですか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。 ・全学級で1週間に1回以上、ICT機器を活用した授業を実践する。 	
取組内容③【施策1 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 校内外の自然や、体験を通しての学習の充実を図る。	A
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・外部人材（専門家・企業・地域人材等）を活用した授業を全学年で実施する。 ・実験や体験を重視した授業を全学年で実施する。 	
取組内容④【施策1 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 学校図書館の整備に努め、読書の推進を図る。	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館開放の回数を増やし、利用児童数を昨年より増加させる。 ・読書ノートを活用し、学年ごとに目標冊数を設定する。目標冊数に到達した児童の割合を70%以上にする。 ・図書ボランティアを活用し、読み聞かせや環境整備に努める。 	
取組内容⑤【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 すんで運動を楽しむことのできる子ども、自分の健康や体に関心をもって、自ら健康的な生活をおくろうとする子どもを育てる。	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・体育集会を年3回以上もつ。（ストレッチ・ミナミンピックの紹介等） 	

- ・柔軟性を高める手立てを全学年で実施する。(ミナミンピックカードなど)
- ・ミナミンピック週間を年3回実施する。
- ・献立表や給食だよりを活用した食育の推進を全学年で取り組む。

具体的な取組内容や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【施策1 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

- ・算数科・国語科で習熟度別学習を実施し、基礎学力の定着・向上につながった。また、国語・算数ではデータベースやドリルなどを活用し、基礎学力の定着に役立てることができた。
- ・個々の学力の向上をめざして、個に応じた課題の与え方の工夫について、「家庭学習のすすめ」を配布し自主学習の啓発を行った。児童の意欲が継続するよう校内に掲示したり「家庭学習のすすめ」に掲載したりした。

取組内容②【施策1 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

- ・計画通り研究授業を年6回実施し、共通理解できるよう「研究通信」にまとめ、配布した。
- ・思考ツール・ループリックについて、今年度作成した「思考ツールワークブック」の活用方法についての研修会も実施し、活用を図った。また、全クラス思考ツール・ループリックを活用した公開授業を実施した。思考ツール・ループリックを授業で活用するよう心がけている。
- ・本校の研究の視点である思考ツール・ループリックの活用について共通理解を図るため、1学期に研修会を行い、活用状況の調査を行った。調査結果を共有することによって、2学期末の活用状況の調査結果は、1学期を上回った。また、2学期末に行った令和元年度の校内児童アンケートにおいて、「生活科・総合的な学習の時間はすきですか」の問い合わせにおいて肯定的な回答をする児童の割合は90%であった。ループリック・思考ツールの活用についての項目においてもループリック・思考ツールのよさに気付いている児童がたくさん見られた。

(ループリックがあるとその授業で何できたらよいのかが分かりやすくなると思いますか。思う・どちらかといえばそう思う。77%前年度より2%の上昇)

(思考ツールを使うと、自分や友達の考えが分かりやすくなると思いますか。思う・どちらかといえばそう思う。81%前年度より6%の上昇)

- ・デジタル教科書については、積極的に活用できた。また、3学期よりタブレットの活用において、朝学習で活用できるように日程を決めたことで、活用状況の向上につながった。今後も各教科の活用以外に朝学習の活用も継続して行うようとする。

取組内容③【施策1 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

- ・各学年で外部講師を招聘した体験的な活動や交流活動が積極的に行われ、充実した学習が進められた。
 - 1年 学校探検 かまきり先生出前授業 外国語授業 昔遊び交流会
 - 2年 手話体験 いのちのわ授業 外国語授業
 - 3年 高齢者疑似体験 認知症認定講習会 車いす体験 田辺大根栽培
町調べ わいわいトーク
 - 4年 パッカー車体験 水育出前授業 盲導犬出前授業 車いすロービジョン体験
車いすバスケ体験 伝統的工芸品教育事業 みどり教室交流会 わいわいトーク
 - 5年 防犯非行教室 音楽体感事業 学校保健委員会

堺区役所・阪堺電車・恵幸商事聞き取り

6年 歯と口の健康教室 理科特別授業 被爆体験聞き取り 租税教室

音楽体感事業 夢・授業 ステンシル体験 学校保健委員会

全校 不審者避難訓練 栄養指導

取組内容④【施策1 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

- 図書室が整備され、大変活用しやすくなった。雨の日の開放も行い、図書室を利用する児童が増えてきた。また、廊下にブックトラックの設置や年に2回の読み聞かせの会も行われ、読書環境は大変整備された。しかし、読書ノートの記録が徹底できていなかつたため、目標冊数に到達した児童の割合は目標に到達しなかった。(15%)

取組内容⑤【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

- 体育集会を6回実施し、運動・保健委員会によるみなみんストレッチ内容の紹介が行われ、家庭でも取り組める手立てとなった。また、がんばりシールの工夫や3回のみなみんピック週間の実施によって、みなみんストレッチに意欲的に取り組む児童は増えたが、取り組めていない児童もいる。

【児童アンケート結果】

ストレッチはよくしますか。(5月時 57%→1月時 61%)

ストレッチをするのが好きですか。(5月時 62%→1月時 58%)

体は柔らかいですか。(5月時 46%)

4月に比べて体は柔らかくなりましたか。(1月 83%)

- 発育測定時の保健指導や保健室前の健康に関する掲示が大変工夫され、子どもたちが目にしたり、手に触れたりしている。その結果、子どもたちが健康や体に対して関心をもつようになった。
- 献立表や給食だよりを通じて、食べ物や栄養について関心をもつことができた。また、給食週間には、普段見ることができない給食室の様子が紹介され給食調理員さんに対する感謝の気持ちをもつことができた。

次年度への改善点

取組内容①②【施策1 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

- 今後も一人一人の状況に応じた課題の提供を工夫し、学力向上に努めていく。
- 今後も自主学習に積極的に取り組めるよう家庭への啓発を行っていく。

取組内容③【施策1 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

- 校外活動と同じように外部講師を招聘する体験活動にも精選していく。これまで招聘していたからという理由で実施したり、単発的な活動として実施したりするのではなく、児童の学習活動に効果的なものを実施するように精選していく。

取組内容④【施策1 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

- 今後も図書室の整備に努めていく。
- 読書ノートの活用の仕方を工夫したり、目標冊数の見直しをしたりしていく。

取組内容⑤【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

- 昨年度取り組めなかったストレッチに重点を置いて、今年度は養護教諭、体育主任、保

健主事を中心に計画した。次年度も体育科などで継続して取り組んでいく。また、次年度の取組内容について検討していく。